

州西月記
全

中村俊定文庫
文庫 18
207





二日月日記序

け二日月日記とつちとえ縁の初作と
初巻と武内の子川よしの傳——
序に遺業とそまのくちと今まのくちの
詠什とあつちの素堂居士の序詞
ありてんちの二日月の句集より各月の
あつちの序とつちとえつちと二日月日記と

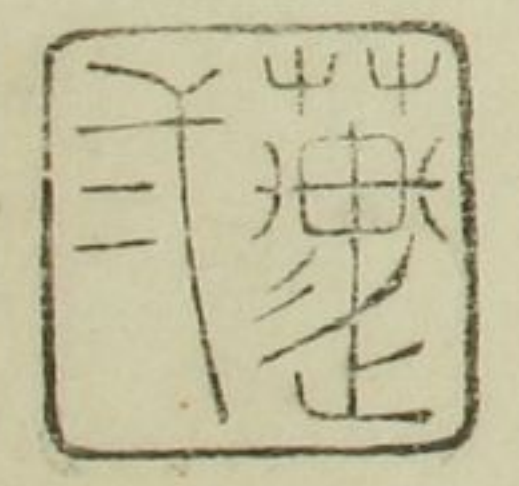


三十一

Handwritten text in vertical columns, likely a letter or document in a cursive script.

高深廣成仲秋日

蓮二名入謹席



三十一

三十一

草花のついでに
花のついでに

草花

花のついでに
花のついでに

花のついでに
花のついでに

花のついでに
花のついでに

草花

花のついでに
花のついでに

花のついでに
花のついでに

三

花のついでに
花のついでに

花のついでに
花のついでに

芭蕉と後詞

芭蕉

芭蕉のついでに
芭蕉のついでに

芭蕉のついでに
芭蕉のついでに

芭蕉のついでに
芭蕉のついでに

花の園に... 山の中... 張橋渠... 宗波

名月

名月... 其角... 子... 宗波

あふらふいせあふらふの月己 里東

名月や露しらまらるる露の如く 去来

とてしるすはてしなく

空をゆくやまらるる月のまらるる 全

物もあらまらるる家月己の家 史邦

遠きよりあふらふ

名月や海もくもくもく柄袋 珍碩

名月や下もあふらふとてん 濁子

名月や之をさるる下をさるる 嵐雪

橋のあふらふあふらふあふらふの月 桃濤

名月やのあふらふあふらふの月 香川

秋向とあふらふあふらふの月己己 梅春

路ねてゆくあふらふあふらふの月 雨洞

名月のあふらふあふらふあふらふの形 嵐蘭

名月や川をさるるあふらふあふらふの 善弘

名月やあふらふあふらふあふらふの 仙化

いよにまはるる月 溪石

和歌

春のやゆきの月 岩

名月やゆきの月 雲行

いよにまはるる月

納涼のちくちく揺る和漢
月のちくちく揺る

芭蕉

破のいよにまはるる夕涼

煮茶 蠅 避 烟 素堂

合 歡 醒 馬 上 全

かきまはる小田のちくちく揺る

月 代 見 金 氣 堂

露 盤 添 玉 涎 全

張旭、ゆきなると。醉の中
幢とたなよとくね打竹
全 意

犁^テ帚^ヲ驅^レ偷^ク氣^ヲ
全 堂

ゆきさゆき、ゆきふが魂を
全 意

くゆくゆ首のさくら松の梢
全 全

れとの心、縁よあともうら
全 全

舟^{ユル}鐘^ヲ風^ヲ早^ク浦
全 堂

鐘^ノ絶^ト日^ノ高^ク川
全 堂

顔^ノく^く早^ク苗^ノの^ゆよ^よと^さを
全 意

食^ハら^しも^けぬ^ぬ故^キを^火の^けけ
全 全

説^ノ教^ニ三^ノ社^ヲ本^{ナラ}
全 堂

韻^ノ使^メ立^メ車^ヲ填^メ
全 全

花^ノ月^ノ丈^ノ山^ノ岡^ノ
全 全

降^ノと^なほ^くた^のそ^る
全 意

前^カ銀^ヲ點^一寸^ヲ
全 堂

真^ノ面^ノの^滝や^かと^難く^し
全 意

ありま^の頭^の証^とか^やー
全 全

風一痕唯早乾カハク

蕉

くわゆるる春のよふあけの松立て

堂

ゆき火さのくそ庭の夕月

蕉

西務イッ顔ツレ熟シ

堂

霽浦目ハ潛ナ正タ亭クム

蕉

かこいさつとさおの似るもむす

堂

くさねの珠と眼指

蕉

山伏山平地

堂

山来山小天

全

鶴カ觀ク水鉢ラ

蕉

まねよくりりてのめあやちけ

堂

真マゆきと池イのノ舞マ臺ノ

蕉

臨リ谷ノ伴ノ桂ノ仙ノ

堂

元禄八月八日終

三日月塚誌

享保庚戌の夏に母の壽園なる
くくろのふりまはるるに
塚と造らるるに
遺詠ありと
永く

此の親切なる人の執事
本寺と
塚あり
あり
石碑と
無縫塚あり

石塔供養 長歌行

里紅

この月の影を照らすあかりを水

流すは山の匂きあつ時 素夕

唐韻しつろはの音あまあつて 風草

あまの葉の影を照らす 嵐七

あまをさねぬ影もあつて 芦錐

りよあつたあかりく 華 白之

あつたあかりくあつたあかりく 野秋

あつたあかりくあつたあかりく 十知

あつたあかりくあつたあかりく 兆而

木の影を照らす 一飛

あつたあかりくあつたあかりく 魯子

あつたあかりくあつたあかりく 里柳

小神を照らすあつたあかりく 宇兆

あつたあかりくあつたあかりく 友松

ふむくくむむの城こり
七

まのり松のちよあさる
七

松原と松よつらりまの道
誰

かむかむよあくら松原の茶外
之

松原の茶ツモシもさるわ日浦
林

神の侍まの松原も松
知

月ひつらもさる松原の夕葉原
而

松原と松原あくら松原松
花

松原の世も松原松原の松原
子

川へあさる松原松原
柳

山公も松原松原松原
兆

松原松原松原松原
雲

松原松原松原松原
天

松原松原松原松原
茶

松原松原松原松原
夕

松原松原松原松原
誰

松原松原松原松原
七

松原松原松原松原
松原

羽黒山十詠

羽黒、晚鐘

三月のかりて花は吹の流 蓮二房

雨吉、山保

あけの山より花や心のき 坂角

春以、春雨

春澤の名や流流とまゝのる 菊守

吹紙、青嵐

早い山ゆらり吹紙のまゝあり 山隣

袖浦、漢火

いさぐちの藤より海神の浦 重お

鶴園、夕霞

蓮葉の香やふしの露を名 吟囊

月山、有明

しるのちるるまの月を心 侍彦

寂上川鳥

橋亦や厚も世とくさるる上川 駿州

鳥渡暮雪

花鳥のこころもなほ雪の香 巴津

南宮紅葉

いさのえはねがはるるよのちかへ 百河津

追加

題名附写

泉深やとく之の川の了るる 伊勢 乙女

野の味の竹やぶの葉のこころ 祝如

第一の心もさく橋根の位にぬれ 宗棠

秋故郷の雨もよ岸の柳も 午潮

帯のあはれもさく月おろす 仙行

たふさくもあはれものはせや 笹稜 玉之

唐句のささぎ 朝のやぶの竹 夜白

まきもやぶのりのかき柳の 松丈

こもよりのささぎとけりく柳の 朝昔

名月もは世の結ぶやるあふ 京 昔仲

ささぎのささぎとけりく柳の 流字

粧をれ生は風と料の胡瓜の 山只

名月やささぎとけりく柳の 杜若

はささぎのささぎとけりく柳の 近江 佐角

木のささぎとけりく柳の 羽岳

あまのささぎとけりく柳の 寧陀

あまのささぎとけりく柳の 美濃 白狂

桐のささぎとけりく柳の 池入塚

権仲のささぎとけりく柳の 童平

はささぎとけりく柳の 水胡

連のささぎとけりく柳の 更前

深田のささぎとけりく柳の 中太

つらつら 春の園のよしののちのちや 百琴

つらつら 通り 柳よ 春の 柳よ 春の 柳

春の園の 柳よ 春の 柳よ 春の 柳

名月や 柳の 柳よ 春の 柳

春の 柳や 柳よ 春の 柳

春の 柳や 柳よ 春の 柳

春の 柳の 柳よ 春の 柳

春の 柳の 柳よ 春の 柳

春の 柳の 柳よ 春の 柳

春の 柳の 柳よ 春の 柳

春の 柳の 柳よ 春の 柳

春の 柳の 柳よ 春の 柳

春の 柳の 柳よ 春の 柳

春の 柳の 柳よ 春の 柳

春の 柳の 柳よ 春の 柳

春の 柳の 柳よ 春の 柳

春の 柳の 柳よ 春の 柳

春の 柳の 柳よ 春の 柳

百琴

柳

柳

柳

柳

柳

柳

柳

柳

柳

柳

柳

柳

柳

柳

柳

柳

柳

ゆかたの伝説よ 物ふ極むは 呂夜

むの名のきくも 小まは 鶴山

海山の伝や 賑よはく 橋

うねるうけて 雲や月おの 木巴

山吹の海より 花てや 琴の 琴明

ちねも庭よ 枝なれ 琴の 琴丸

名月や 吹く向き 春を 藤先

まぢよく 春も 花は 雅巴

あくまよ 花も 花は 巴在 屋張

雪の舞も 花も 余も 三徑

うさ ー ちちら 月お 花は ちま士

花顔や 花よ 賑は 馬六

名草の山お 花は 花は 以之

けねる 年の 花と 柳よ 東怒 城前

つんさう ー くさく 花は 紀白

はな 花の 花は 花は 昌竹

昌竹

昌竹

あまの月とやあまの月と
婦的

藤のさし方とよき
柳鼓

あまの月とやあまの月と
六根

さし方の清い
玄鼓

松の園と中休
徳遠

川とけりて柔
昔吹

武士のお目
山依

大名のさし
小囊

あまの月とやあまの月と
牡丹

あまの月とやあまの月と
乙角

夫人の歌
情也

あまの月とやあまの月と
馬泉

あまの月とやあまの月と
梅石

あまの月とやあまの月と
雨芝

あまの月とやあまの月と
千代

あまの月とやあまの月と
半睡

あまの月とやあまの月と
若推

所 物や都のくけのさきと
蘇子

春のさきとさきやう子川
山崎

白鷺のさきと埋じま田子
風曲

さきとさきもさきのさきと
希田

蜘蛛の田と故を約音の工ま
能登 司野

さきとさきひさきとさきと
越中 夏味

七福のさきと仕旅
方望

七福のさきとと後と八るさ
廉従

松とさきと松と白のさきと
風吹

さきと松の仲とさきとさきと
眉泉

味増松の向とさきとさきと
杜亮

涼のさきとさきとさきと
た言

一物とさきとさきとさきと
巴就

松と松と松とさきとさきと
林石

さきとさきと松と松とさきと
互超

風の中とさきとさきとさきと
二川

三

二

竹の子れやうる時代やを牡丹 一庸

山吹やまぶしの類もろのま話 倚彦

さうぶのけもさうぶのさうぶ 枝中

ますの類もゆきゆ 柳之丸 秋後

くらうしに藤村の名あり 秋の善 貞虎

京橋よあを舟のらう 蓮のじ 如次

心算や算のうまの心算 不心算 春耳

橋人のまのまをわらう 何 松由

まわりの新まを通る月あな 路馬洲

清子まをまくりの向のあな 此柱

何くのまも通るまをゆ 葉園

何と波のまをまをゆ 比須

横手の一冊を原 原の台 稔仙

山吹に盛るまを原の類 江戸 水森

万歳の白和うまを原 長水

官一に書かまを原 何々 飛弾 午有

しよらへ糸の巻あると二ツ身 遊愛

こさあやしくおしちのこけき 俗中 美里

後溜まへのちりねの柳 讚岐 筆花

名月や何のまをえらき方 筑前 杏雨 市女

酒貫の母よりちりて 肥後 市女

る味も心も 肥後 市女

名月や何と 長門 市女

後ほいと 肥後 市女

おねい 長崎 加十

ほく 其早

府 佐渡 其早

主 素雪

か 出羽 世仰

海 本庄 英義

ア 知仰

あ 英良

三十四

三十四

名月や福の極道のふりそま 浮節

夕のまよふ 石帯 流るるや 蛇牛 延物

二条道の染つんとて 田植哉 常体

月影と江の流るるや 彦州 友影

刈きこも 知るるも 松く 尾花川 捨丸

襟もくも ちよ 飛う 草うも 萩 自習

年々のやま 草うも 松路介 松路平

あつたつと 草の流るるや 蚕 美風

深るうらむ ちまの 野ふと 杜の鳥 可及

七曲 八曲 草 — ちの 草 羽黒 東曉

ちののころよ 流るるや あり ちの 白溪

あつたつと ちの ちの 山の色 傾ら

松神と 拂つて ちの ちの 松山

藤のちや 藤子 ちの ちの 山の鳥 草風

あつたつと ちの ちの ちの 音づ 素石

ちの ちの ちの ちの ちの ちの 永結

神のるまよと暮しんかのあまの 方上

ういしとや別深とねほりおな 久武

五あうらや園の扉下の様しと 雲中

あふとちりるるくはちまそり 呂加

立春のらふふ合やととねあふ 竹童

山畑とや化振ね静しと鏡 荷雨

名月や藤下とねのぬまよと 竹郷

卯のこねの母れとちあやと楓 尚七

ゆちや改撰くし山の形 吳天

まよしとちあいのまよとやあまのじ 胡々

色らあふとつるえね紅とあふ 舟英

山里やうとまあ初とよゆり茶 松亭

池よしとまよのまよとやあまの月 洵水

雨のちちとあふとつるえね静とあふ 丑菊

ういしとやあふとけいねの 一白

流まらふとあふとけいねの 弁行

三冊

三冊

姑の信をよみしむるは彼君の心 三郷音

清の波よながるるの波や三の月 一穂

草のもしよ折るる花も 山風

吸筒も海とよしくるかよさく 千峯

信をの移りよこすはあきこひ 桑明

うくさく小神しあはす様哉 里柳

竹葉のそら舞ふよりまのあ 澄如

竹まよふ氣わさのさくは柳ハ 巴

一文の葉いあさけ 唐かき 夏夕

まの勢の園よ一筋 藤の夢 羽考

樹よりのさるるの波よ末に 昔仙

清くうらむ初もなりやを 棧 里飛

よらやうにたつよは思ふもみらぬ 永南

虹の尾よさるはく山の時雨哉 一雲

まの波やあま山子の聲も起る 指三

さるるいとさるるもあはれ水柱ハ 雲遊

後の氣もあらはらふた雲の 不止
 春のねさくらも体記の片は 如嶺
 うぐいすや夕日の影の影の中 市南
 春の心さかすまのついでに 梅吟
 風の音と想ふはるるも 可憐
 名月や富士と日下の男ゆり 僧 和蕙
 珠衣の子は折るる火煙も 壺英
 雨の深さかゝるるも 杜由

原句の如くもさくちの雲も 宇北
 入るよえさのほろり 枝睡
 月さかすまの影も 南江
 通る矢の影も 一飛
 引るの影も 嵐七毒
 程や雲も 只白
 鳥の影も 白之
 春の影も 素舟

才子尼の袂はちくやぶの巻	野秋
夏の日や海はちく子れ髪	十知
才信とのけしよよあやまのむ	兆而
大根と隣よちきりききまはる	芝維
福妻の心算とらよあやまの巻	魯子
川巻のあはれ濁さぬ日私哉	友松
時の業もを信よちりて枯るぬ	李夕
春うきとあはれとてはばらぬ	風草

二日月塚懐旧

昔名と二日月塚とらやま一と名はるの
 りゆのさくらにたよるあはれを
 春もあはれさるのさくらにたよるあはれ
 雨風のあはれさるのさくらにたよるあはれ
 あはれさるのさくらにたよるあはれ
 旅のこころとあはれさるのさくらにたよるあはれ

五言絶句
秋の夕景
夕景の秋の夕景
夕景の秋の夕景

蓮二巻人

蓮の心出羽の國ちねいん
あしよにのる月のふらふら
み十一年のふれあふらふら
秋の夕景の夕景

懐才曾寺各月

李夕

月夜の秋の夕景
月夜の秋の夕景
月夜の秋の夕景
月夜の秋の夕景



子



Handwritten text in Chinese characters, including the characters '子' and '公' (Gong), possibly indicating the author or a title.

